

だ

だんだん暑くなってきました。もう梅雨も目前です。いかがお過ごしでしょうか？前回の第1回あいほうすの集い「なつかしのレコード鑑賞会」はたいへん楽しい催しとなりました。ご参加くださった皆様ありがとうございました。あいほうすではこれからも小さな催しを企画してまいります。お知らせは当社のホームページ(<http://www.ihouse.bz/>)と、この「あいほうす通信」で行います。興味のある方はぜひお気軽にご連絡ください。

さ

さて、のだめカンタービレなどで最近クラシック音楽の人気の高まっているようです。でも、クラシックってやっぱり敷居が高い、と感じている方も多いはず。そこで今回はクラシック音楽の聴き方というか楽しみ方というかそんなものを私なりにご紹介したいと思います。

その1 耳慣れた曲をさがして曲名をおぼえる。

なんといっても曲名がわからなければその曲を楽しめません。まずはCDショップなどで「CMで使われたクラシック」とか「眠れない夜の・・・」とかさまざまなクラシック曲のオムニバスCDを入手して曲の名前を覚えましょう。

その2 好きな作曲家を見つける。

交響曲や協奏曲は1曲きくだけで1時間とかそれぐらいの時間を必要としてしまいます。まずはお手軽にピアノ曲で好きな作曲家を見つけ出してください。ピアノ曲は1曲が短く気軽に聞ける上おなじみの曲もたくさんあります。

その3 その作曲家の生活、時代背景などを調べる。

好みの作曲家が見つかったら、その作曲家の私生活や作曲当時の環境などを調べてみましょう。例えばベートーベンがピアノ曲「悲愴」を作曲した時難聴をわずらい自殺まで考えていたそうです。そんな色々なことを知っているか知らないかは大きな違いです。今はインターネットがありますので調べるのも簡単だと思います。

い

いちゃごちゃと書いてみましたが、クラシックを聞くことにますます抵抗がおきてしまいそうでもちょっと反省。でもクラシック音楽は生活を豊にしてくれますよ。なんとなく敷居が高いと思っている方。この機会にぜひ聞いてみてください。次回のあいほうす通信で、第二回目の「あいほうすの集い」の告知を行う予定です。乞うご期待！！

徳さんのスペシャルな一枚



フレデリック・ショパンのピアノ協奏曲 ピアノはアダム・ハラシェビッチによる一枚です。みなさんもよくご存知の通り、ショパンはピアノ曲ばかりを作曲した人としてよく知られています。そんなショパンですが生涯にたった2曲、ピアノ協奏曲を書いています。その中の一曲が本日ご紹介するピアノ協奏曲第一番ロ短調です。紙面では残念ながらメロディをお伝えすることはできませんが、オーケストラの奏でる美しい第一主題を強いピアノが引き継ぐという印象的なオープニング。その旋律の美しさの源はもはや「血」であるとしかいいようがありません。わずか20歳の青年の手による作品とはとても思えない豊かな天分を感じさせられます。深く故郷ポーランドを愛したショパンですが、この協奏曲の初演をワルシャワで行った後パリに移り二度と故郷の地を踏むことはありませんでした。パリに移ったショパンはピアノ曲ばかりを書き続けわずか40歳という短い生涯を閉じることとなります。彼がピアノの詩人と呼ばれるまでにピアノだけにこだわった理由は、ピアノへの深い愛情と職人のような執念ではないかと思えます。わたしはあいほうすの事務所で一人この曲を聞いているとき、仕事への才能の多寡はあるにせよ、はたしてこれほどまでにのめりこんで物事にあたっているのかふと考えこむことがあるのです。このレコードも事務所の一番目立つところに飾ってあります。お聞きになりたい方はぜひお気軽に声をおかけ下さい。



♪お家のなんでも相談所♪

株式会社 あいほうす

住宅・店舗設計・リフォーム・防音工事

相談・見積り無料。

お気軽にご相談ください。

TEL 092-409-9445

メール info@ihouse.bz